



ネッシーは本当にいるの

ネッシー調査団が何回も調査をした

ネッシーとは、イギリスのスコットランド地方にあるネス湖という湖に、巨大なかい物（かいもの）がいるといい伝えられてきた、かい物（かいもの）についた名前です。1934年に、湖から長い首を上げたあやしい生き物の写真をとった人が現れ、全世界の話題になりました。湖を泳いでいるのを見たという人が毎年のように現れ、各国から調査団が出かけました。1967年のイギリスの大学が行った超音波レーダーによる調査では、巨大な生物がいると報告が出されました。潜水艦による、生けどり作戦もたてられました。日本からも、探検隊が出かけました。

科学者たちは、水にすむ巨大な虫類の仲間、プレシオサウルスのような生き物を想像していました。しかし、スコットランドは寒すぎてすめないはずだし、ネス湖は仲間とくらすプレシオサウルスのような巨大な虫類がすむには、せますぎるし、えさもたけません。ネッシーがいることには、疑問をもつ人が多かったようです。ネッシーの正体は、巨大なチョウザメだという学者もいました。

最初の泳ぐネッシーの写真は、いんちきだった

1994年6月13日、イギリスの新聞に、60年前の1934年に発表されたネス湖を泳ぐネッシーの写真は、じつは、5人のイギリス人がじょうだんで作ったものだった、という記事がのりました。潜水艦のおもちゃに、プラスチックで大ウミヘビの首のようなものをつくってはりつけ、ネス湖にうかべて写真をとったものだったということです。作った5人のうちのひとりが、死ぬ前にうち明けたとのこと。これで、ネッシーは、ほぼいないことになったようです。（監修・今泉 忠明）

